

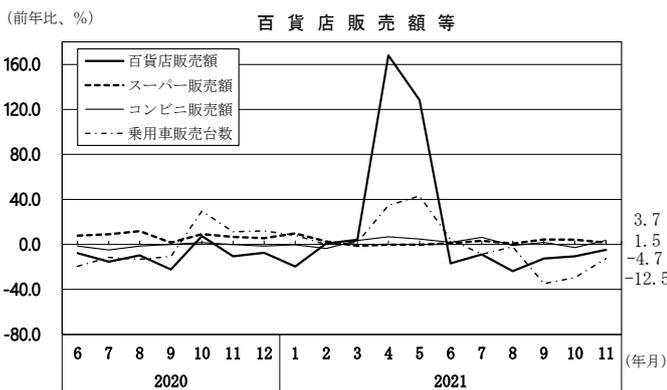
● 最近の県内経済  
(2021年11月を中心として)

今月の概要

県内景気は、個人消費を中心に、持ち直しの動きがみられるが、年末以降、新たな変異株の感染急拡大による影響が懸念される。

1 個人消費

基調として持ち直しているが、年末以降、新たな変異株の感染急拡大による影響が懸念される。



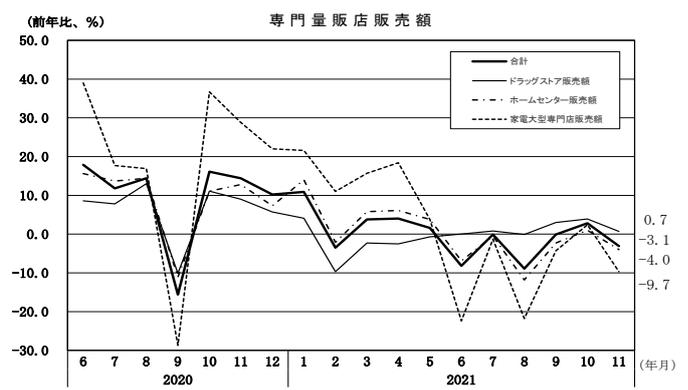
(資料) 経済産業省、埼玉県自動車販売協会など

個人消費は、飲食・サービス・イベント関連を中心に、持ち直しの動きがみられるが、年末以降、新たな変異株の感染急拡大による影響が懸念される。

11月の百貨店およびスーパーの販売額（店舗調整前）は、百貨店が146億円で前年比4.7%減（6か月連続の減少）、スーパーは942億円で同1.5%増（6か月連続の増加）となった。また、コンビニ販売も536億円で同3.7%増と、2か月ぶりの増加となった。

乗用車販売は、前年比12.5%減と5か月連続の減少となった。内訳をみると、普通車（同20.0%減）は3か月連続の減少となったほか、小型車（同6.7%減）、軽乗用車（同7.5%減）は、いずれも6か月連続の減少となった。

スーパーやコンビニにおいては、緊急事態宣言解除後も巣ごもり需要が堅調に推移した一方で、原材料価格高騰の影響がみられた。



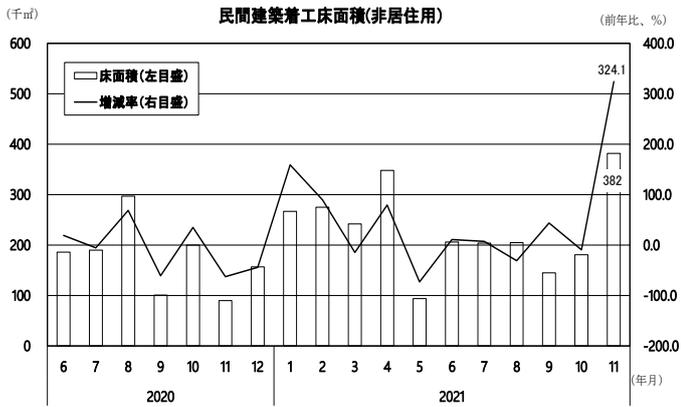
(資料) 経済産業省

11月の専門量販店販売額は、704億円で前年比3.1%減となった。内訳をみると家電大型専門店が166億円で同9.7%減（2か月ぶりの減少）、ドラッグストアが366億円で同0.7%増（3か月連続の増加）、ホームセンターが173億円で同4.0%減（2か月ぶりの減少）となった。

関東1都6県の消費者態度指数（原数値）は、10月〈40.2〉、11月〈40.0〉、12月〈39.4〉で推移している。

## 2 設備投資

持ち直しの動きがみられる

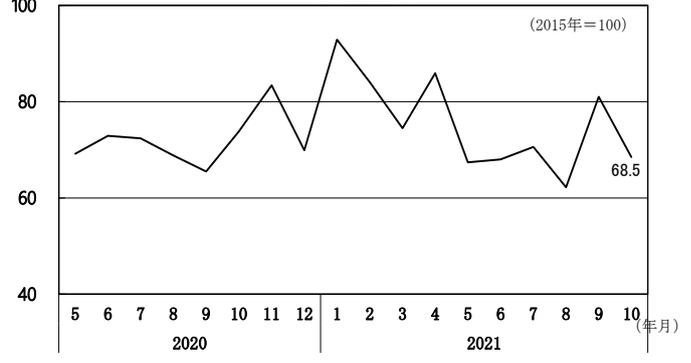


世界経済の拡大や、旺盛な半導体関連需要を受けて、製造業で投資意欲が活発化しているほか、2020年コロナ禍で見送った案件の実行も幅広い業種でみられる。

11月の民間建築着工床面積（非居住用）は、382千㎡で前年比324.1%増となった（5か月後方移動平均でも前年比27.3%増）。

用途別にみると、事務所は減少したものの、店舗、工場及び作業場、倉庫、病院・診療所はいずれも増加した。

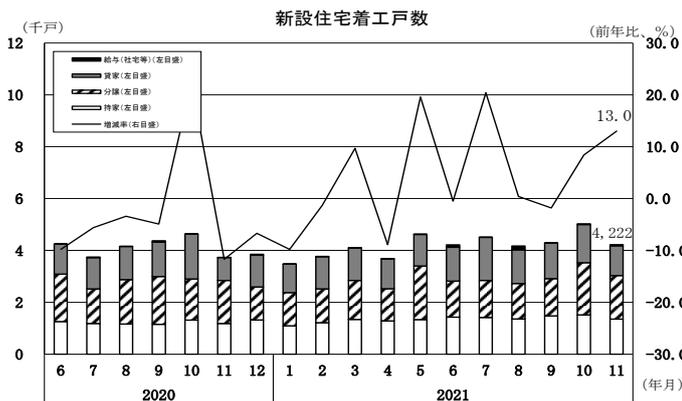
資本財出荷指数  
(季節調整済)



10月の資本財出荷指数（季節調整済）は68.5で、前月比15.4%減と2か月ぶりの減少となった（5か月後方移動平均では、前年比0.2%増）。

## 3 住宅建設

持ち直している

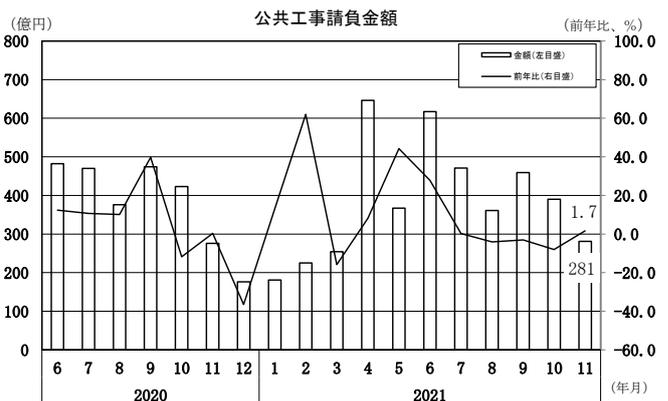


コロナ禍で低調だった昨年の反動増に加え、郊外で広い家を求める動きもあって、本年入り後持ち直している。

11月の新設住宅着工戸数は、4,222戸で前年比13.0%増と2か月連続の増加となった（5か月後方移動平均では、7.6%増、7か月連続の増加）。利用関係別にみると、分譲マンション（326戸）が同43.0%減となったものの、持家（1,350戸）が同14.3%増、貸家（1,149戸）が同29.4%増、分譲一戸建（1,348戸）が同24.9%増となった。

## 4 公共工事

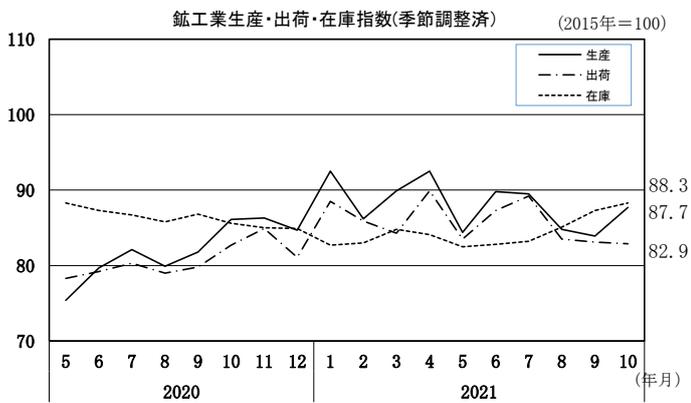
高水準にあるものの、このところ弱含んでいる



政府の2020年度補正予算において、大幅上積みされた公共事業関係費の一巡から弱含んでいる。

11月の公共工事請負額は、281億円で前年比1.7%増となった（5か月後方移動平均では前年比2.9%減）。発注者別でみると、国、独立行政法人等、市区町村、地方公社は減少したものの、都道府県は増加した。

## 5 生産活動 持ち直しに足踏みがみられる



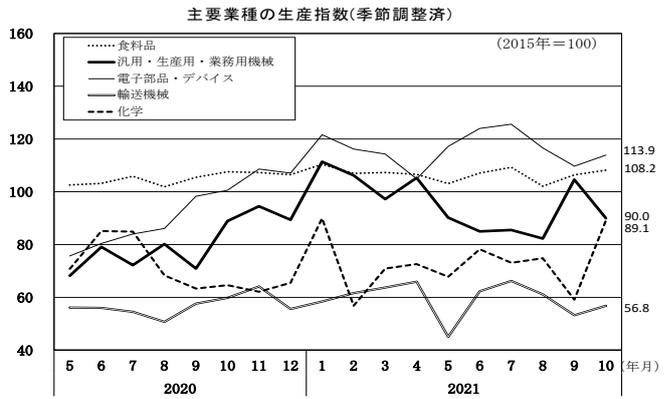
(資料)埼玉県

中国の景気減速を受けた輸出の鈍化や半導体不足を受けた自動車の減産の影響を受けて、持ち直しに足踏みがみられる。

10月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、87.7で前月比4.5%上昇(4か月ぶりの上昇、5か月移動平均では87.1、前月比0.8%上昇)。生産用機械(フラットパネル・ディスプレイ製造装置、半導体製造装置)、鉄鋼業(鋳鉄管、鋳鉄物)などが低下したが、化学(医薬品、ウレタンフォーム)、情報通信機械(カーオーディオ、カーナビゲーション)などが上昇した。

出荷指数(同)は、82.9で同0.2%低下(3か月連続の低下)。輸送機械(乗用車、自動車エンジン)、業務用機械(医療用機械器具、パチンコ)などが上昇したが、生産用機械(半導体製造装置、フラットパネル・ディスプレイ製造装置)、化学(化粧品、合成樹脂塗料)などが低下した。

在庫指数(同)は、88.3で同1.1%上昇した(5か月連続の上昇)。輸送機械(乗用車、輸送機械用エアコン)、化学(印刷インキ、合成樹脂塗料)などが低下したが、パルプ・紙・紙加工品(段ボール原紙、衛生用紙)、プラスチック製品(プラスチック製容器、プラスチック板)などが上昇した。



(資料)埼玉県

◆ 食料品の生産指数(季節調整済)は、108.2で前月比1.7%上昇し、2か月連続の上昇となった。

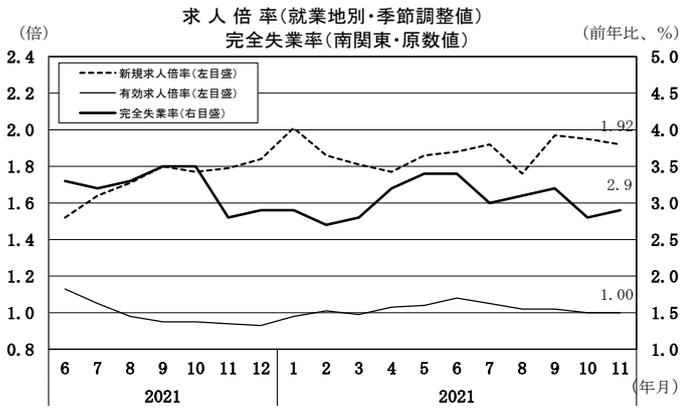
◆ 汎用・生産用・業務用機械(同)は、90.0で同13.9%低下し、2か月ぶりの低下となった。

◆ 電子部品・デバイス(同)は、113.9で同3.8%上昇し、3か月ぶりの上昇となった。

◆ 輸送機械(同)は、56.8で同6.8%上昇し、3か月ぶりの上昇となった。

◆ 化学(同)は、89.1で同50.8%上昇し、2か月ぶりの上昇となった。

## 6 雇用情勢 弱い動き



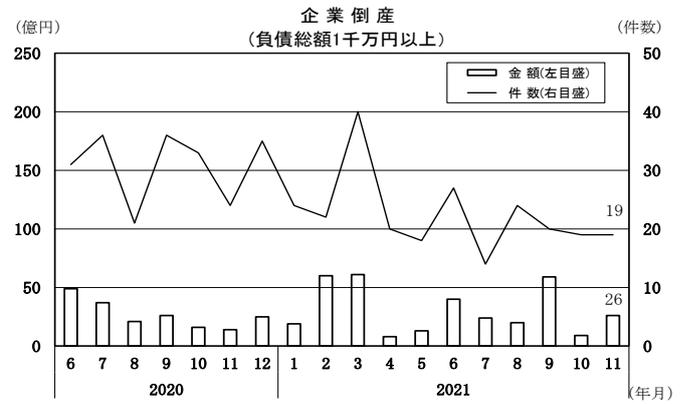
(資料)厚生労働省、総務省

昨年のコロナ感染拡大に伴い、対面型サービスを中心に経済活動が抑制された影響から、弱い動きが続いている。

11月の有効求人倍率(就業地別、季節調整値)は、前月比横ばいの1.00倍となった。また、新規求人倍率(同)は、1.92倍で前月比0.03ポイント低下した(2か月連続の低下)。

完全失業率(南関東、原数値)は、2.9%で前年同月比0.1ポイント上昇した(前年同月比5か月ぶりの上昇)。

## 7 企業倒産 一進一退



(資料)帝国データバンク

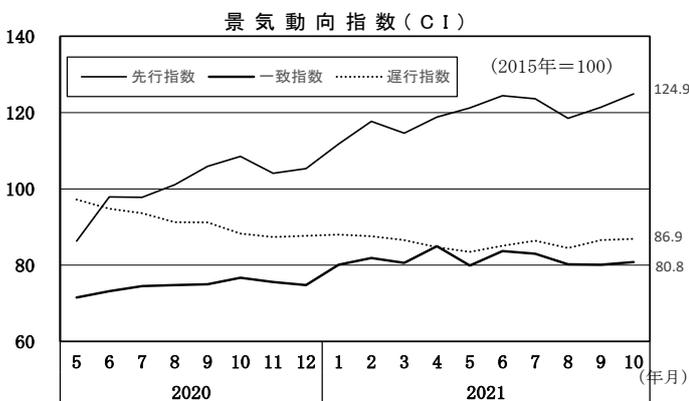
コロナ対策としての政府の資金繰り支援策もあって、低水準で推移している。

11月の企業倒産件数は、19件で前年同月比5件の減少となった。負債総額は26億円で同12億円の増加となった(5か月後方移動平均では、件数は前年比36.0%減、金額は21.6%増)。

業種別にみると、卸売業が最多で5件、次いで建設業が4件、製造業、運輸・通信業がそれぞれ3件と続いている。主因別では、販売不振が16件となっている。

## 〈参考〉

### 景気動向指数(CI) 足踏みを示している



(資料)埼玉県

10月のCI一致指数(景気の現状を示す)は、80.8で前月比0.7ポイント上昇し、4か月ぶりの上昇となった。

CI先行指数(景気の数か月先を示す)は、124.9で同3.5ポイント上昇し、2か月連続の上昇となった。

CI遅行指数(景気に遅れて反応する)は、86.9で同0.3ポイント上昇し、2か月連続の上昇となった。